

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	平成 30 年度第一回教育課程編成委員会 バイオ・環境系分科会	
開 催 日 時	平成 30 年 7 月 20 日 (金) 15 時 35 分～17 時 25 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 1001 教室	
参 加 者	外部委員：7 名	内部委員：5 名
	＜外部委員：6 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 池上 正人 (NPO 法人日本バイオ技術教育学会理事長／東北大学名誉教授) 市川 和人 (トコスエンタープライズ株式会社) 早乙女 俊行 (ペントロンジャパン株式会社 取締役 品質管理本部本部長) 佐々義子 (NPO 法人くらしとバイオプラザ 21 常務理事／神奈川工科大学客員教授) 皆川 剛 (水 ing 株式会社 O&M 統括 O&M 技術・研修部 オペレーション技術課 課長) 小野寺 洋子 (株式会社 光英科学研究所 取締役研究統括) 藤沼 俊則 (NEC ソリューションイノベーション株式会社 バイオ開発センター 兼 日本電気株式会社) ＜内部委員：5 名＞ 大江宏明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科长 議長) 今野祐二 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科长) 井上綾子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科) 大藤道衛 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科) 松井奈美子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科、書記)	
会 議 録	＜バイオ・環境系分科会＞15 時 35 分～17 時 15 分 - 議長挨拶 (大江) - 前回議事録確認 (大江) - 議題確認 - 議題 - バイオ、環境、ディプロマポリシー全体設定 - カリキュラムポリシーの検討 - バイオ科カリキュラム一部構成の変更について - 教育活動状況について - リアルジョブプロジェクト (RJP) の取組み状況と課題 - 外部へのアナウンス活動 市民講座 私たちの DNA、TTC バイオ - カフェ、Eco - Café - 配布資料 - バイオ・環境系分科会 パワーポイント資料 1 部 - 平成 29 年度第二回教育課程編成委員会 バイオ・環境系分科会 議事録 1 部 - バイオテクノロジー科 ディプロマポリシー 1 部 - 環境テクノロジー科 ディプロマポリシー 1 部 - バイオテクノロジー科 カリキュラムポリシー 策定案 1 部 - 環境テクノロジー科 カリキュラムポリシー 策定案 1 部 - 意見交換 - バイオ、環境、ディプロマポリシー全体設定についての意見交換 - バイオテクノロジー科 ディプロマポリシー について - 人材目標 目標人材設定を「技能者といった意味合いが強い技術者」といった事だけではなく、人を育てるといった観点をいれ総合職 (人間性や倫理、コンプライアンス) を視野にいれてはどうか。 - ディプロマポリシーに掲げる項目 - 生物分析、2) 物質分析、3) 実験研究計画に加え、1 項目目に「基礎知識」を最初に入れるべきである。 「生物分析」 生物分析といった言葉は造語であるため「生物の取り扱い」や一般的な名称を使用するか、米印 (※) などで造語である事を追記するべきである。	

(定義を注釈としていれるべき)

1.2 環境テクノロジー科 ディプロマポリシー について

- ・現在行っていないため 1) ①「生態系」削除 すべき
- ・現在、汚染物質は測定していないため、ディプロマポリシーに揚げる項目 2) 汚染物質を「物質など」に訂正すべき
- ・測定していないため 2) ⑤粉塵 を削除すべき

1.3 全学科 ディプロマポリシー について

- ・カリキュラムポリシーの構成は倫理やコンプライアンスの観点を含めた人材目標を設定するべきである。

2 - カリキュラムポリシーの検討

2.1 校全体 カリキュラムポリシー 全体的な構成

- ・小山学園の PDCA と企業で使われる PDCA の意味合いが違う。小山学園が考える PDCA は C=教員が評価されて A=改善を図るといった意味合いなど、注釈をいれて説明するべきである。
- ・「教育の中心にある」といった表現が適切ではないため、「すべて学校評価を学校教育の中心に据え」といった表現に変更するか、削除するべきではないか
- ・「改善を図ることがポリシーとします」にしていると、ポリシーが毎回変わってしまうといった意味合いになってしまう。「図っていきます」など違う表現にしたほうがよい。
- ・学生や主婦には PDCA は一般的ではない可能性がある。そのため、PDCA の説明を入れるべきではないか

2.2 バイオテクノロジー科 カリキュラムポリシー

2.2.1 人材目標

- ・人材目標を技能者といった意味合いを強くするのであれば、「担当できる技術者」といった表現で良いが、実験を組み立てる事ができる促進力などを人材目標にするのであれば「遂行できる技術者」に変更するべきではないか。

2.2.2 カリキュラム編成

- ・「調べる技術」といった表現は、一般的な意味合いは調査するといった意味合いになってしまうため、「実験や分析技術」といった表現にするべきではないか。バイオ科の教育の内容は、1 年次の基礎から 2 年時の応用技術…を上位に述べ、その後調べる技術はそのあとに記載するべきではないか
- ・「シラバス」を「カリキュラム」に変更するべき
- ・「モノづくり」だけではないため、入れないほうが良い
- ・生物分析 微生物が抜けているため、「動植物個体」を変更し「動物、植物、微生物」といったものにすべき
- ・基本的に基礎を行っているため、①②に基礎を加えるべきである。
- ・クロマトグラフィーや電気泳動といった言葉は一般的ではないため、注釈や違う表現で記載するべき。
- ・「核酸」といった表現を「ゲノム」や「DNA」といった時代を反映した言葉にしてもよいのではないか

2.3 環境テクノロジー科 カリキュラムポリシー

- ・③はディプロマポリシーでは基礎知識の分野にあたるため、上位にくるべきではないか。
- ・③に RJP 入れたほうが良い
- ・生物多様性は指導しているが、「生態系」は指導しきれていない。そのため、生態系は削除し「自然環境保全」といった表現などにしてみてもどうか。

3 - バイオ科カリキュラム一部構成の変更について

特に指摘なし

4. 本年度第二回教育課程編成委員会の連絡（大江）平成 30 年 11 月 22 日（木）実施予定

5. 閉式の辞（大江）17：25 終了

以上